

まちだ下水道 2019年9月発行

GESUIDO通信

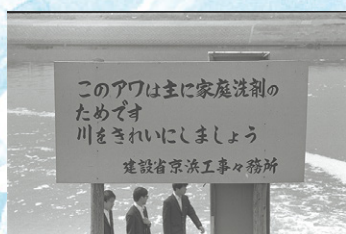
たまには
下水どう？

発行：町田市
編集：下水道部
下水道総務課
〒194-8520
町田市森野 2-2-22
TEL：042-724-4287
FAX：050-3161-6448

9月10日は下水道の日です。町田市の下水道の仕組みや使用方法などを紹介します。

No.5

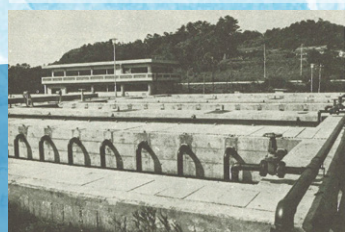
オリンピック と下水道



写真：東京都環境局提供

白く見えるのは、洗剤の泡です。それを注意する立看板があるなんて、今では信じられません。それほどまでに川は汚れていたのです。

1967年(昭和42年)
・鶴川下水処理場運転開始



1977年(昭和52年)
・成瀬クリーンセンター
運転開始
・下水道人口普及率は6.1%

2020年東京オリンピック

維持管理の時代

前回の東京オリンピックから今年で55年。この間、下水道の普及によって河川の水質が改善され、子ども達が遊べるようなきれいな川が戻ってきました。

下水道が広く普及した一方で、55年という年月は、下水道管の老朽化という新たな問題を生じさせます。老朽化した下水道管は、道路陥没などの事故につながるため、計画的な調査で状況を把握し、効果的な修繕や改築を行っていくことが重要なことです。

2020年の東京オリンピックを控えた今、下水道事業は維持管理の時代を迎えています。今後も安心して下水道を使い続けていくために、老朽化対策など適正に維持管理をしていく必要があります。



子ども達が、安心して遊べるきれいな川。日常にあるそんな風景を、下水道は支えています。

1964年東京オリンピック

建設の時代

東京オリンピックを控えた東京は、首都高速道路や新幹線など様々な整備が行われました。下水道も例外ではありません。

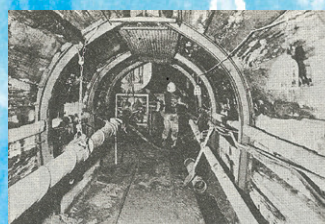
ちょうど都市化の進展により、河川の水質悪化に悩まされていた時代です。河川の悪臭が原因で、1961年には隅田川花火大会が中止になってしまいました。

こうした状況を受けて、下水道も積極的に整備が進められたのです。このオリンピックを背景とした下水道整備が、その後の下水道の飛躍的な普及につながっていきます。

下水道整備の波は、郊外の町田市にも届きました。町田市が下水道事業の認可を受けたのは、1964年。そう、東京オリンピックが開催されたちょうどその年です。

ここから町田市の下水道事業がスタートしました。

1964年(昭和39年) 町田市公共下水道事業がスタート



1970年代の下水道整備工事の様子。東京オリンピック後も、着実に整備が進み、下水道が普及していきました。

1990年(平成2年)
・鶴見川クリーンセンター運転開始
・鶴川下水処理場を廃止し、その跡地で
鶴川ポンプ場運転開始
・下水道人口普及率は57.6%

2013年(平成25年)
・市街化区域の污水管の整備が概ね完了
・下水道人口普及率が97.6%に到達

※下水道人口普及率とは…町田市全人口の内、下水道が整備された地域に住む人口の割合を示した指標です。

下水道管の維持管理方法

町田市に埋まっている下水道管の総延長は、約1,650km。これは、町田市から那覇市の直線距離(1,525km)を超える長さです。

この膨大な長さの下水道管を維持管理するには、莫大な費用や時間が必要です。そこで、計画的かつ効率的に維持管理を行うため、「ストックマネジメント手法」を採用しています。

※ストックマネジメント手法とは

- ①下水道管の経過年数等により調査の優先順位を決定します。
- ②優先順位が高い地区から、下水道管の状態によってふるい分けをするスクリーニング調査を行います。
- ③スクリーニング調査の結果を受けて、下水道管の異常箇所を詳細に調べる調査を行います。
- ④詳細に調べた結果、破損の恐れのある下水道管に対して修繕・改築方法を検討します。
- ⑤修繕・改築方法を決定し、計画的に工事を行い直していきます。

災害時のトイレ

いつもは快適に使用できるトイレも被災すると注意が必要です。トイレに漏水はないか、きちんと使えるかなど事前確認が必要です。町田市から「使用制限」が出ていないか、自宅周辺の下水道管は大丈夫かなども気を配りましょう。また不測の事態に備え、ご家庭での携帯トイレの備蓄をお勧めします。市でも避難施設にマンホールトイレの整備を進めています。



「トイレに行きた〜い」

排泄は生理現象。災害時にも例外なく、その時はやってきます。

でも、ちょっと待って!



そのトイレ、本当に使えるの? 災害に合うと、トイレも被災します。ちゃんと流せるか、確認した上でトイレを使いましょう。

こんなことが、
現実に起こり
ます。



▲流れていかなないと困りますよね。こうなってからでは遅いです。トイレを使う前に必ず確認しましょう。



▲自分ではちゃんと流したつもりが、階下の住居から汚水があふれてしまうことも。事前に災害時の使用ルールなどを確認しておきましょう。

★ここを確認!★

- ☐ 漏水の恐れはないか? 目視やにおい、音で確認。
- ☐ 自宅敷地内や付近の道路で、陥没や下水道管の浮上はないか?
- ☐ 市から、下水道の「使用自粛」「使用制限」のお知らせがないか?
- ☐ (共同住宅の場合) 管理組合などによる使用ルールはあるか?

トイレが使えない、その時は

携帯トイレを備蓄しましょう

携帯トイレとは、トイレに被せて用いるもので、便袋に吸水シートが付いたものや、便袋と凝固剤を併用するものがあります。

ホームセンターなどで買うこともできるので、家族の人数や使用回数を想定して備えておきましょう。

携帯トイレの袋がない時でも、ごみ袋を二重に被せ、新聞紙や紙おむつに吸水させることで代用することも可能です。



避難施設のトイレ

問合せ
下水道整備課 ☎724-4301

各避難施設には、仮設トイレが4基備蓄されています。町田市では、避難施設のし尿収集が滞らないよう、し尿収集業者と協定を結び、災害の発生に備えています。

また、し尿収集の必要がないマンホールトイレの整備を進めています。このマンホールトイレは、下水道管に直結していて、プールの水を利用して排水するものです。現在、28施設への整備を完了しました。

▶マンホールトイレ設置イメージ。専用のマンホールを開けて、その上に簡易便座とテントを設置します。



町田市の取組み ~災害に備え、下水道施設の耐震化を進めています~



下水道管の耐震化

問合せ
下水道整備課 ☎724-4301

阪神淡路大震災(兵庫県南部地震)クラスの地震に耐えられるよう下水道管の耐震化を進めています。

1996年以前に布設した汚水幹線や避難施設からの排水を受ける下水道管といった、町田市内の重要な幹線などの約94%は耐震化が済んでいます。

今後は、液状化の懸念があり耐震性能が確保できていない下水道管を中心に、耐震化を進めていきます。



▲マンホールの耐震化工事の様子。内壁を補強しています。

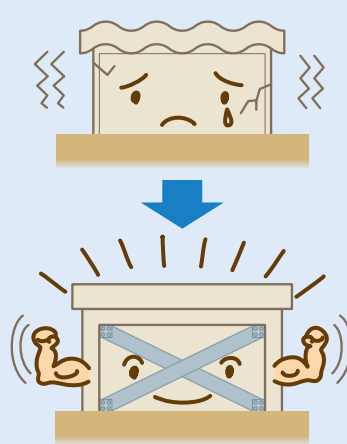
下水処理場の耐震化

問合せ
水再生センター ☎720-1825

1977年から下水処理をしている成瀬クリーンセンターでは、施設が老朽化しています。施設が地震に耐えられるかを調査し、耐震補強するなど災害対策に取り組んでいます。

~これまでの経過~

- 2017年 管理棟耐震補強
- 2018年 自家発電機施設新設
- 2019年 塩素混和池と次亜塩素タンク棟の耐震実設計



~雨がえるからのお知らせ~



屋根や庭に降った雨水を地中にしみこませる「浸透ます」や「浸透管」を設置する方を対象に20万円を上限として補助金を交付しています。

浸透ますや浸透管を通して地中にしみこませることにより、豪雨の際に河川に流れ込む雨量を抑制し、河川の氾濫を防ぐことにつながります。

住宅を新築・改築する際にも利用することができるのでご相談下さい。

※予算がなくなり次第終了します。また、交付には条件がありますので、事前にご相談ください。

雨水浸透設備設置補助金

問合せ
下水道管理課 ☎724-4330

